

手の水ぶくれから治療を始めた成人アトピーの経過 (22 歳女性)

症例 ID：001-20-HM6 | 記録日：2016 年 9 月 17 日

1. 診断・治療前経過

小さい頃から腕や脚の関節に湿疹があり、毎日母親に薬を塗ってもらっていました。小学校高学年からは花粉症もあり、点鼻薬や飲み薬を使用していました。

高校2年生頃から手に小さな水ぶくれができるようになり、初めは薬で治まっていましたが、次第に効かなくなり、塗るとかえってかゆくなるようになりました。大学4年生の2015年12月、手の水ぶくれが皮膚科の軟膏でも治らなくなったことをきっかけに松本医院を受診されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	小児期から腕や脚の関節症状に対して外用薬を使用していました。高校期以降、手の水ぶくれに対して皮膚科でステロイド外用薬を処方されました。花粉症に対して点鼻薬や内服薬も使用していました。
製品名	不明。
強度	不明。
使用期間	小児期から来院前まで外用薬使用歴があります。
中止時期	2015年12月の松本医院受診後、ステロイドを使わない方針へ移行しました。
来院前／後	来院前に処方・使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
小児期	来院前	腕や脚の関節に湿疹があり、薬を塗っていました。
小学校高学年以降	来院前	花粉症に悩まされ、春には点鼻薬や飲み薬を使用していました。
高校2年生頃	来院前	手に水ぶくれができ、薬を塗ると最初は治まりましたが、次第に効きにくくなりました。
2015年12月	治療開始	大学4年生の時に松本医院を受診しました。
治療開始～2か月	初期	大きな変化はなく、リバウンドが来ないかもしれないと感じる時期がありました。
治療3か月頃	症状変化	徐々に腕が赤くなり始めました。

4. ピーク時期

ピークは、手の水ぶくれが薬を塗っても治らず、塗るとかえってかゆみが強くなっていた来院前の時期と、治療3か月頃から腕の赤みが出始めた時期です。

5. 困りごと

- ・手に水ぶくれができ、薬を塗っても治らず、かゆみが増えることが不安となりました。
- ・荒れた肌を人に見られることへの抵抗がありました。
- ・ステロイドを使わない治療先を見つけるまで、複数の皮膚科で同じようにステロイドを勧められました。

6. 経過のまとめ

小児期から湿疹があり、高校期以降は手の水ぶくれに悩まされるようになりました。2015年12月に松本医院を受診し、最初の2か月は大きな変化がありませんでしたが、3か月頃から腕の赤みが出始めました。

症状には波がありましたが、通院経過の中で、皮膚状態や生活面に変化がみられた症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。